

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第1回フォーラム検討会議
議事録

日時：11月14日（水） 15：00～：17：00

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（東大）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
渋谷（元気ネット）、竹中（東大）、中岡（元気ネット）、丸山（NV研）、諸葛（東大）

配布資料

F1-1. 議事次第

F1-2. 研究概要

F1-3. コミュニケーション・フィールドの調査

議題

0. 自己紹介
1. 業務の概要説明
2. 既往のコミュニケーション・フィールド研究の紹介と整理
3. 自由討議
4. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 自己紹介

参加者全員が簡単な自己紹介を行なった。

1. 業務の概要説明（配布資料 F1-2）

木村氏より、資料 F1-2 に基づいて、業務の概要説明があった。

2. 既往のコミュニケーション・フィールド研究の紹介と整理（配布資料 F1-3）

竹中氏より、資料 F1-3 に基づいて、既往のコミュニケーション・フィールド研究について説明がなされた。

追加して調査すべき点などに関して、活発な議論がなされた。以下にその概要を示す。

【手法の分類等】

- ・ 双方向でないコミュニケーションが行われる場合もコミュニケーション・フィールドと呼ぶのか。
→情報の流れがある場合を（例え一方向でも）コミュニケーション・フィールドと定義する。それは「情報提供（専門家→市民）」、「意見聴取（専門家→市民）」、「参加型手法（専門家⇄市民）」の3つに分類されるだろう、という整理。
- ・ 本事業で行なう「フォーラム」と、一般的なコミュニケーション・フィールドを指して用いている「フォーラム」が混在している。**後者は単語をあらためるべきだ。**
- ・ 討論型世論調査は「参加」に分類されるのか。→従来の分類では「参加」に分類される。
- ・ **「エネルギー・環境の選択肢に関する討論型世論調査」は、討論型世論調査の実施例として、調査する価値がある。**
- ・ 従来型参加型手法の分類において、「共同」「協働」という単語が混在している。
→原文は外国語なので、訳の問題もある。**原文を調べる必要がある。**

【3つの参加型手法の実践例について】

- ・ シナリオ・ワークショップで、最初にシナリオを提示する必要性
→そもそもシナリオ・ワークショップは、行動計画を作るところに主題がある。紹介した例では、いきなり議論を始めた場合どのような展開になるかが想像できず、悩んだ末に最初にシナリオを提示する方法を採ったのだと思われる。
→（11月16日の第1回全体会合にて訂正）シナリオ・ワークショップは、最初にシナリオを提示して、シナリオの批評に十分時間をかけるところが要諦である。

- ・ ディープ・ダイアログで、対話時間を増やしたにも関わらず、満足が得られなかった理由は何か。
→「時間が足りない」という意見が出ていたと書かれていた。(知れば知るほど、もっと知りたくなるからではないか。) **満足が得られなかった理由の詳細が調査されることが望ましい。**
- ・ ディープ・ダイアログで、報告書が専門家の意見に近くなったのはなぜか。
→対話を重ねると、どちらかという、市民が専門家側に近寄るという構図になってしまうのだと思われる。
- ・ シナリオ・ワークショップの最初のシナリオは、誰が作ったのか。
→ワークショップ主催者が用意した→市民側が用意したシナリオもあったほうがいいのか。
- ・ **テクニカルな情報も調べてほしい。**(どのくらい時間をかけたのか、どのように仕切ったのか、専門家を何人そろえたのか。どの条件がうまくいったのか。等)
- ・ **1つ1つの調査・研究の成果を、次にどのように活かしていったのかが、市民の側からは見えなくなっている(当初はその観点も含めて検討していたはずだが、見えなくなってきた)。どうして見えなくなっているのか。**

【本業務で試行するフォーラムの課題】

- ・ 市民と専門家の2項対立という枠組みで行なうフォーラムにおいて、市民をどう捉えるか。(市民はニュートラルではない)
- ・ スライド15の表で、市民、専門家の前後が入れ替わっている部分がある。何か意味があるのか。

3. 自由討議

議題1、2に関して、自由な議論が展開された。主な内容を以下に示す。

- ・ フォーラムの話題の例としてALARAが挙げられているが、専門家でも考えるのが難しいテーマだ。意味合いの近いHow safe is safe enoughなどはどうか。
- ・ 一般的と思われる単語ですら、正しく理解している人は少ない、ということ、専門家の人には認識してもらいたい。(例：リスク)
- ・ フォーラムメンバーのバランスとは、実施主体がバランスが取れていると思うよりも、社会的に見てバランスが取れていると見えることのほうが大事。
- ・ 強い意見を持つ人(特に反対派の人)は声が大きいため、人数が多いように感じてしまうが、実態は違うのではないか。実態に即したメンバーのバランスを取るべきではないか。

- ・ 市民にはもっともらしく聞こえるが、実は間違った認識をしている専門家もいるのではないか。専門家を選ぶ際、注意が必要だ。

最後に、木村氏から今後の議論の方向性が提示された。

フォーラムの設計段階は、竹中氏の整理の中で「観察者の目的設定」「フォーラムの目的設定」「テーマ研究、専門家ネットワーク」「市民パネル募集、決定」「ワークショップ（フォーラム）の内容、段取りの決定」となっている。このうち、「フォーラムの目的設定」「市民パネル募集、決定」については、まだ議論の余地がある。これらを決定した上で、さらに「ワークショップ（フォーラム）の内容、段取りの決定」を行なっていく必要がある。

12月末に社会調査票を確定させる必要があるため、「フォーラムの目的設定」「市民パネル募集、決定」は12月中旬までに確定させる必要がある。「ワークショップ（フォーラム）の内容、段取りの決定」は、来年2月までに決定する。

4. その他

- ・ 次回は11月27日（火）15：00～17：00に行なう。
- ・ プロジェクト名の略称が募集された。

以上